



ルー  
テル

# 藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2025年7月6日

No. 134

この自由を得させるために、  
キリストはわたしたちを自由の身にしてくださったのです。

ガラテヤの信徒への手紙 5章1節 ・ 新共同訳



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙 12章15節

---

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏  
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009  
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: [fujigaoka@jelc.or.jp](mailto:fujigaoka@jelc.or.jp)



ここで注目したいのは、人々がそれぞれ「まず」と口に出していることです。この「まず」と訳されているギリシャ語は、福音書だけでも 72 回使われていますから、一般的な表現と言えるでしょう。それは様々な日本語に訳されているようですが、私なりに分類を試みているうちに、その中で 2 つの分類に着目してみたいと思ったのでした。一つ目はそれが「いちばん」あるいは「先」と訳されている、次のような箇所になります。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり(なさい)」、「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる」、「いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい」という教えです。いずれも有名なイエスの教えですね。これらの例は、私たちの「まず」が、自分自身について「まず」「最初に」考え、さらに人と比べて「誰より先に」「あの人より上に」と願っていることを明らかにしています。そしてそれらはいずれも「人の前」でのみ生きているということなのです。「同時に神の前」という理解など、まったく見られないのです。

次に二つ目の分類は、それが「第一に」と訳されている箇所で、次のような場面をあげることができます。それは一人の律法学者が「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか(12 章 28 節)」と、イエスに問いかけている場面になります。イエスはこれに対して「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい』」と教えられたのでした。これは一つ目の分類にみる「先に」「上に」という人

間的な思いに比べると、明確に区別され、神の御心が最初に来ることを示していると言えるでしょう。つまり、こちらの分類は「神の前」で生きることについて、触れていることがわかります。「まず」という表現に注目してまいりましたが、取り上げた 2 つの分類は、私たち人間の思いを主語とする「まず」と、神の御心を主語とする「まず」があり、どちらを主語としているかによって、決定的に意味が違ってくることを明らかにしています。「人の前」と「神の前」とのちがいが、ここに見られるというわけです。

今日、主イエスの招きに対して「まず」と答えた人々は、まちがいをなく「人の前」に立ち、自分のことあるいは家族のことを優先させていることがわかります。しかしイエスは人を優先させ、人の思いを主語とするのではなく、「人の前」に生きながら同時に「神の前」に生きることを教えているのです。たとえ人間的には「人の前」では、許容範囲と思われる「まず」であったとしても、人間を主語としたものは、神の御心に照らすと、ふさわしくないのです。「人の前」で生きる私たちののですが、同時に「神の前」で生きるようにと招いているのです。

「われ、ここに立つ」。私たちは確かに人の前に生きる一人ひとりに違いありません。私たちの目に映るのは「人」であり、「人」との関係の中で私たちは生きているのです。しかしルターが言っているのは、確かに「人の前に」生きるのですが、同時に神の前に生きる一人にほかならないということです。この事実を知らされて、私たちは「私ではなく、まず神に」すべてが帰せられることを望む一人ひとりとして、今日も新たにされるのです。

## 半日修養会報告①

～実行委員としてまた参加者として学んだこと～

田〇〇夫

### ・修養会の再開

3月30日の礼拝後、新型コロナの感染拡大により休止されていた、教会の大きな行事である修養会が開催されました（参加者18名）。今回、どのような内容で修養会を開催するかが2月の役員会で話し合われ、今日的課題となっている「孤独」や「孤立」といった問題を取り上げるのが良いのではないかという大枠が決められました。以前の方式を踏襲し具体的な内容は実行委員会発足後に、テーマ及びサブテーマが決められました。

聖句：互いに愛し合いなさい。ヨハネ 13 章 34 節

テーマ：「信徒の交わりを深めよう Part1」

サブテーマ：「信徒の交わりと孤独」

委員：○野姉 永○姉 ○谷姉 ○藤姉 江○姉 ○木(○)姉 田○

### ・プログラム

まずどのような進めかたが相応しいのか、実行委員会で協議されました。5年ぶりということもあり、今まで実施されてきた『講師をお呼びし、お話を聞いて勉強する』というスタイルとは違う形で実施して良いのではないかという提案がなされ、参加者の皆さんがざっくばらんに語り合える修養会にしようということになりました。その為にどんな展開が望ましいのかということでは、まずレクリエーションをして和やかな雰囲気を醸し出し、その柔らかな空気感の中で昼食を共にしたら、その後のお話し合いが弾んだものになるのではないかという案が出され、委員全員が賛同しました。

当日は、初めての試みに参加する皆

さんがどう感じてくださるか少々不安でしたが、終了後に「レクリエーションはとても良かった」との声が寄せられ、その言葉をお聞きした瞬間に、大袈裟かもしれませんが、努力が報われたとホッとした気持ちに満たされ、胸を撫で下ろしながら軽やかなステップで教会を後にいたしました。

昼食後は、佐藤先生にサブタイトルに即したお話をさせていただきました。その内容をベースにお話し合いへと進む予定でしたが、司会者からスムーズな進行のために「今回のテーマ設定の経緯を話していただきたい」と提案されました。そこで、私が役員会や実行委員会で話した、“仕事人間として生きてきた自分が退職し、仕事の整理（断捨離）を4年かけて終えた時、自分は何か孤立している、孤独だなという焦燥感に苛まれている”こと。また、“毎週教会でライブ配信と式文投影の準備や片付けに忙しくしていると、誰とも言葉を交わすことなく帰宅する事がしばしばで、教会に来てもなにかやるせなさを感じている”という話をしました。

先生のお話と個人が抱えている課題を叩き台にしてお話し合いがスタートしたのですが、最初のレクリエーション効果だったので、参加者の皆さんが予想以上に具体的な生活体験に即したお話をしてくださり、あっという間に終了時間となりました。



## ●女性会だより

6月15日 女性会参加者 13名

司会、祈り 永〇姉

1 聖書の学び マタイによる福音書第  
5章14節 証人

「あなたがたは世の光である。」

2 女性会例会

①城南神奈川地区の集まりについて  
9月27日(土)13時から15時。  
藤が丘教会にて

②在り方検討委員会報告

③東教区女性会 秋の集いの日程変更  
11月22日→11月15日に変更。  
10時半から市ヶ谷教会にて

次回は7月20日

## ●CS「父の日工作」

6月15日の父の日に、家族への感謝を込めたプレゼント作りをしました。子どもたちは画用紙を使って箱作りにチャレンジ！ 完成した箱にドリップコーヒーやお饅頭、お菓子を詰めて、メッセージカードを添えて持ち帰りました。プレゼントの一部は、お世話になっている「教会のおじさま」がたにもお渡ししました。子どもたちの想いがたくさん詰まった、あたたかい父の日となりました。

プラ〇ン・プ〇ヴェーシュ (訳 〇野〇苑)



## 今月、 受洗記念日を迎えた方々

6日 〇田由〇子姉

23日 上〇〇子姉

25日 〇井〇子姉、今〇〇子姉

30日 〇坂〇美姉

おめでとうございます。



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

ローマの信徒への手紙12章15節

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから



## ●牧師室より



毎日暑いですね。皆さん、お変わりありませんか？ いつも教会のために、お祈りとお支えをいただき、心より感謝いたします。

今年の総会にてご承認いただいた、宣教方策に基づいて、教会では「これからの教会を考える会」を随時開催しています。だれかの問題ではなく、皆さんとご一緒に考えてまいりたいと願っていますので、ぜひご参加ください。参加できない皆さんには、参加したにお尋ねいただき、情報を共有してください。よろしくお祈りいたします。

厳しい夏が予想されます(すでに厳しいのですが)が、皆さんのご健康が守られますように、お祈りいたします。

また、教会からの郵送を2月に一度とさせていただきます。ご了解ください。(佐藤)



スマートフォンで、こちらのQRコードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。